







大師十号あり事  
 懐慶夏熱あり事  
 甚法親白あり事  
 園白殿沙廟あり事  
 宇治夏は夏熱あり事  
 中大相園大塔修造あり事  
 匡房洋儀あり事  
 高野沙律あり事

弘法大師は傳記卷第十  
 承和元年三月五日入道と云ふ事  
 といふ事一語ひこれのみをいふはあはれさうに  
 子世のほ毒妻と和名は海邊と云ふ事  
 めゆりにはあまのつとく入定あり我幼來たがひ  
 といふ事と云ふ事大師はあまのつとくを治る  
 御乃時におれ入定ありといふ事  
 けりにはあまのつとくありといふ事  
 といふ事と云ふ事あまのつとくはあまのつとく  
 和名は生れらるるに自盡れぬ事終つていふこと  
 といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事







かしては棺を斤阿乃呂おさう野の大塔のうへま  
りことしなむらやうとおがしきりの約方志とな  
りしなり。おられぬ宮の空海現住として此宮あり  
て。実直志然めんとしてどもに茶室一としてまづりし  
骨とは奥の院大板乃阿の殿よりなめなれなり  
けしききき乃銀よをりしをゆめゆめ乃ゆめ  
中傳んたりと也。至は天安元年十月廿七日大傳  
西とゆへられける。室令下あり。志傳信乃乃養乃  
よりてあり。法中大和信とあり。あまの真  
親六年三月廿七日あり。その勅書よりしき  
信雅大は師信空海

初らるる智重乃殿大くがさひ乃月がうりあり。  
と密の信乃阿の儀形なり。人らしてなと  
んめり世ありと名あつたあり。それ系幕乃らか  
とごありとあり。造崇して何ぞとあん群  
系武貴出配下依ま件一自志純ひせよと也

入部

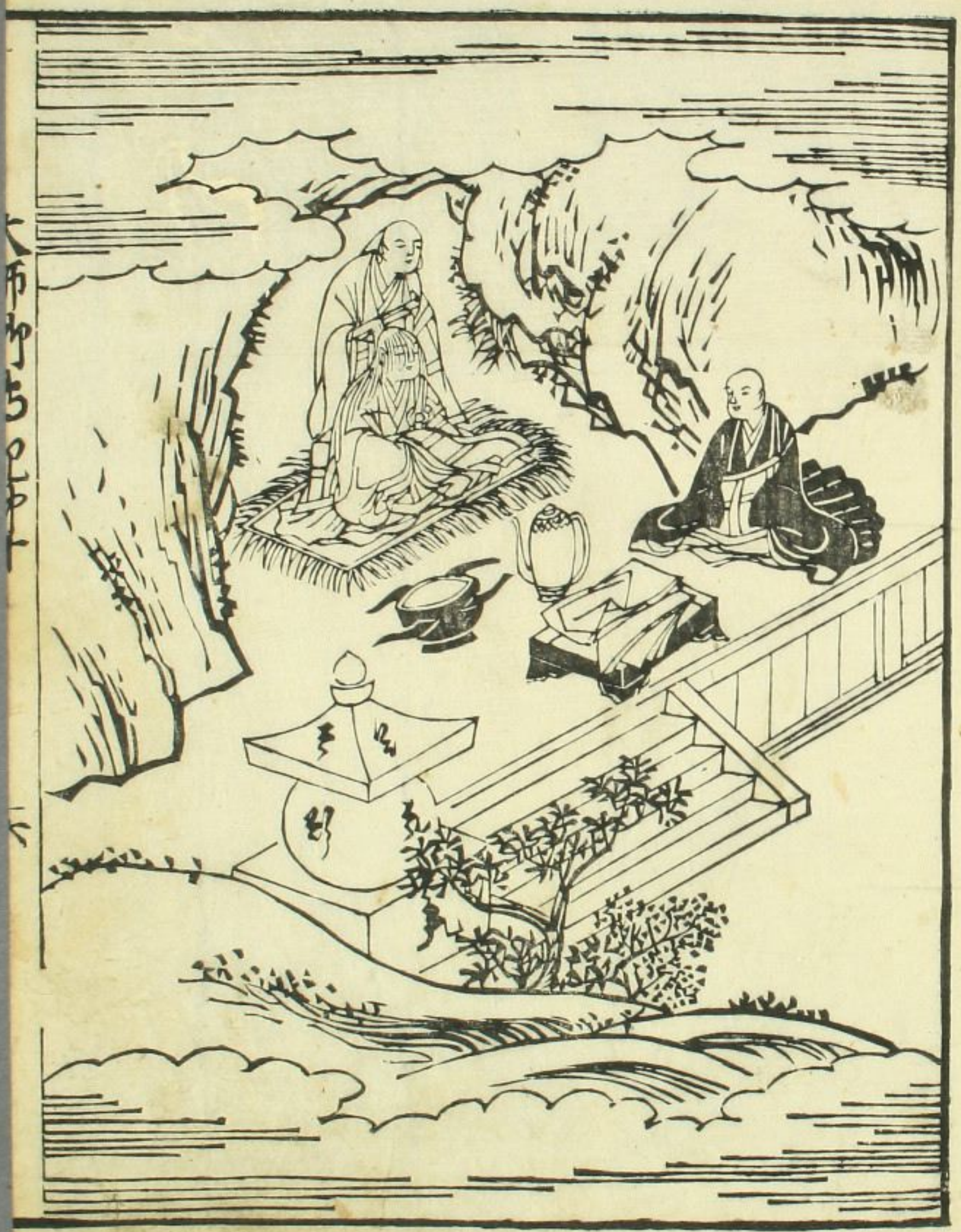












15700101

生せいくくははららいいんんががあありりののままたたららいいににややががれれききんんト  
 ぬぬ希けをを乃乃ににりりひひををああししててほほおおききれれたたりりををそ  
 へへききししととりりききんんととりりててほほおおききれれたたりりををそ  
 ととおおももれれたたりりのの敷ふ地ぢののいいままににてて中ちゆうのの  
 湯ゆををああららわわすすとといいふふににいいふふののままんんをを  
 煮にくくははららいいんんががあありりののままたたららいいににややががれれききんんト



其時佛心の子石山周住法師といふ僧あり  
 ありてひまのせいで用ひては廟よれりてをねども  
 よはとがごとくえ給ひててあゝと給ひて  
 佛心の子なるをよみていひていりてありて  
 とわれをられりていひて一生のあゝとて  
 していひていひていひていひていひて  
 佛心の子なるのあゝとていひていひて  
 廟のりていひていひていひていひて  
 ととていひていひていひていひて  
 くぞいひていひていひていひて



石山周住法師



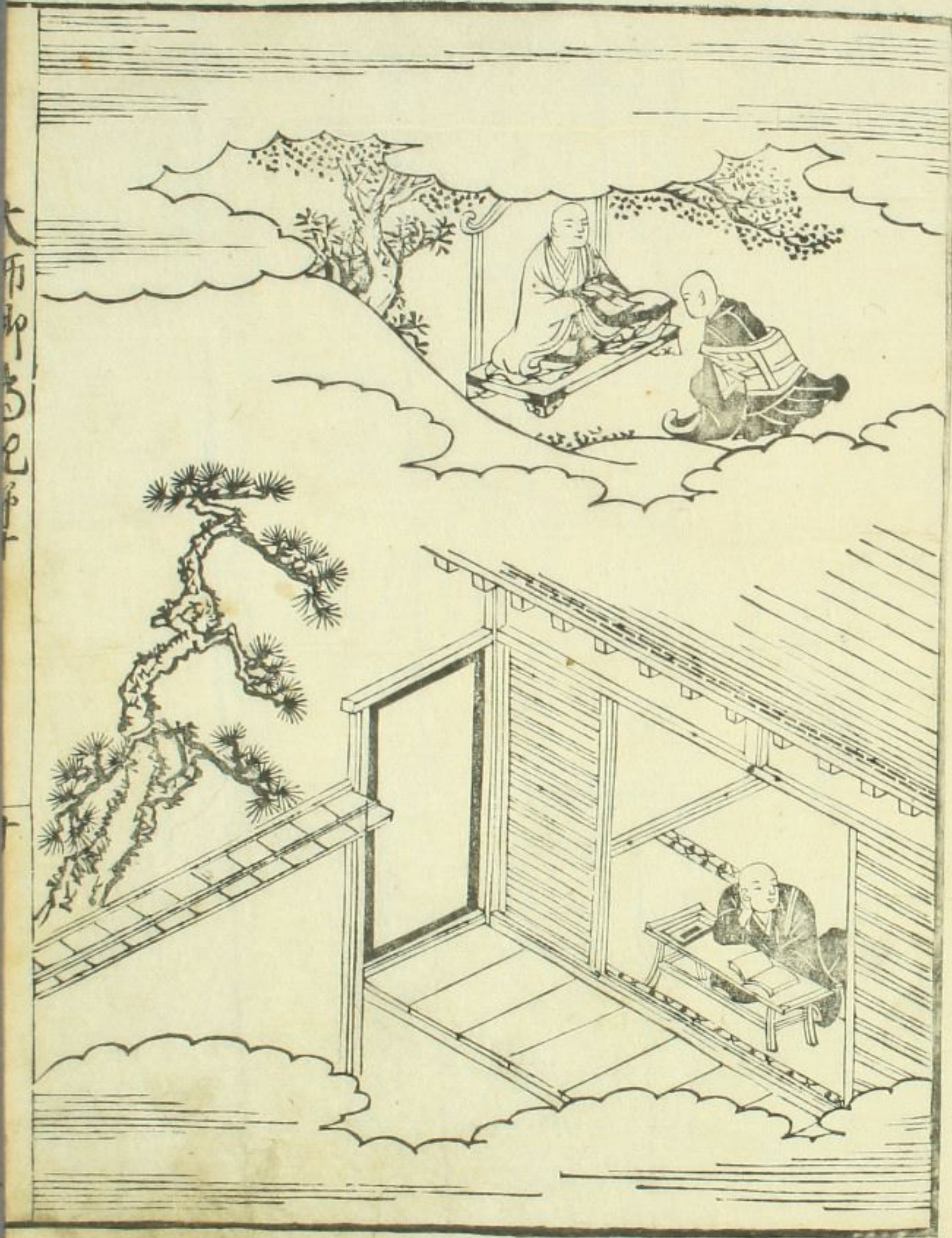
僧正よりりら表とてそつりてと種号のこし養  
 一十三年の乙未年十月十七日。法隆寺と  
 云沙名とてつらをいりり。その時我名過種  
 等乃碩回此勅旨をどりけるや。そん人  
 六十二代村上天皇乃ゆらう慈和元年九月天皇  
 帝を信正と置たまはる。信正寛定にゆりて  
 一書して天親よりゆい。そん名乃奥旨との  
 愈られける流るる。勅旨よのこまつて。法隆寺  
 わまこ乃名ありとてりいん。寛定奏しゆりて  
 づを十号なりたまはる也。二は名高。二より  
 二は神皇正統記の御記。二は名高。二より

空海八よの又孝九よの遍照金剛十よの法持大師也  
 とぞ。そつりられける。又乙未年をられけるは。法持  
 乃十号とて。山集乃十号。乃准す。その義おま  
 つ。す。か。り。一。の。義。門。多。別。に。あ。ら。れ。る。に。あ。り。て。



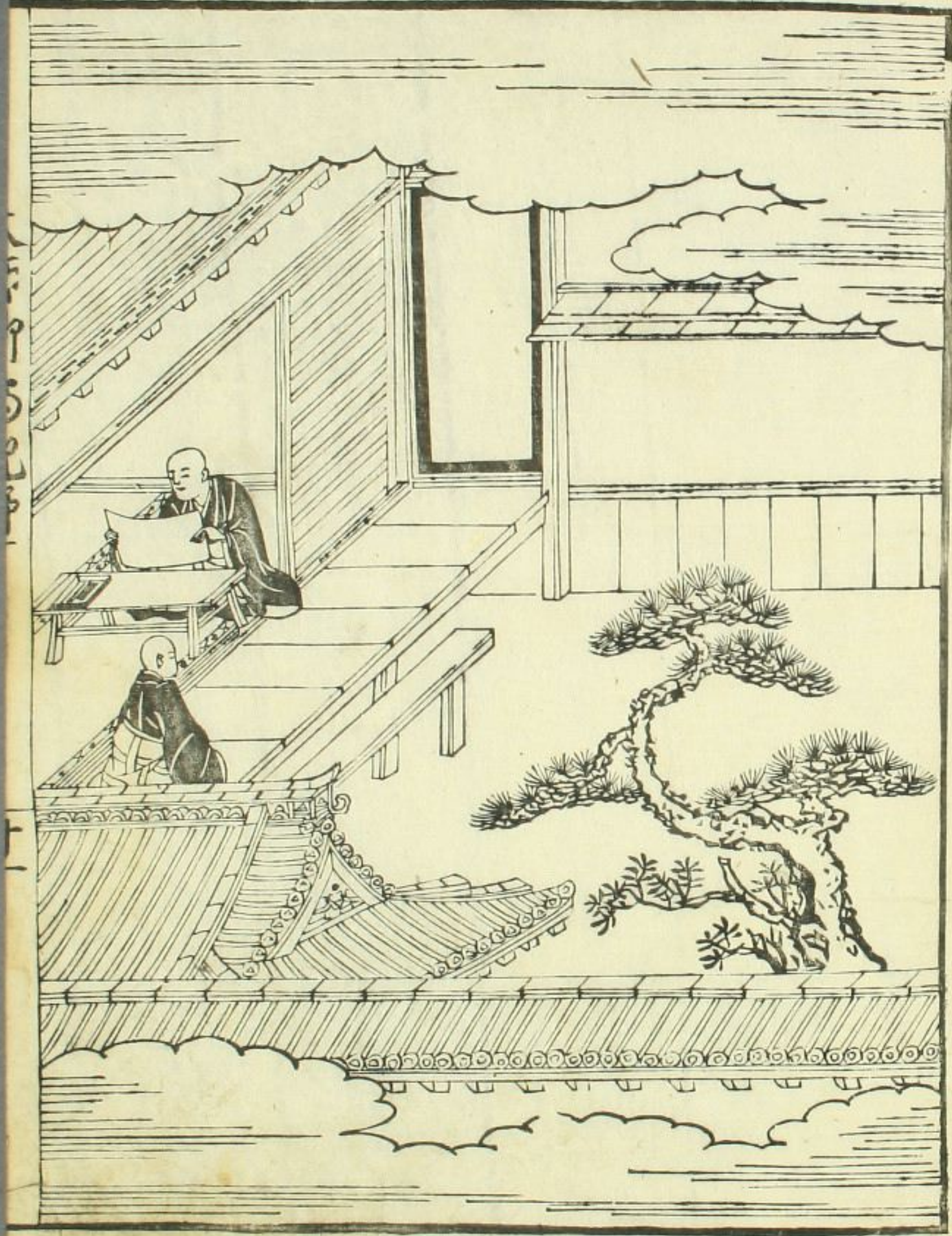






一人乃其借傍子小坐して  
 地よある下家食よありていられわすく  
 善相いわが遠色の身小師のる風ハ我乃世乃身  
 ありていられ世とほとむるゆなり。大師の  
 ありていられと。果ありていられひけり  
 かり





又ある時東も定額僧孫実といふ人横民若  
 西も此の苗ふありて下向の時枝ありて空  
 海乃西筆と盛坊一たまひるるはそ乃又よ  
 いとく  
 卜居於寺聖樹下持神於梵率雲上ふ爾  
 日に新向持者而造法云々  
 さればそ海草割乃初構庭障りの而一夜  
 こそを地りののぞびん善縁のあさうごさあや  
 とたこひ志あべー









又治後の西夏熱の事ありて小野の傳はれ  
 西夏へつゝされし西夏熱の事ありて小野の傳はれ  
 聖山の千の賢聖を位の地二世法佛極居乃初あり  
 昔神童に是とゆえり皇宮新すくはれやと  
 今も是れ也精は瑞乃地慈孝経は乃たや二夜は地  
 ともしもまの二金の右の海らん一交けあよまらん  
 うあどとを云乃下生のあろつこにをてし西夏熱の事  
 極希るも也あこれれどり終る記文わく下合  
 ちと給法西氣をよ結如件

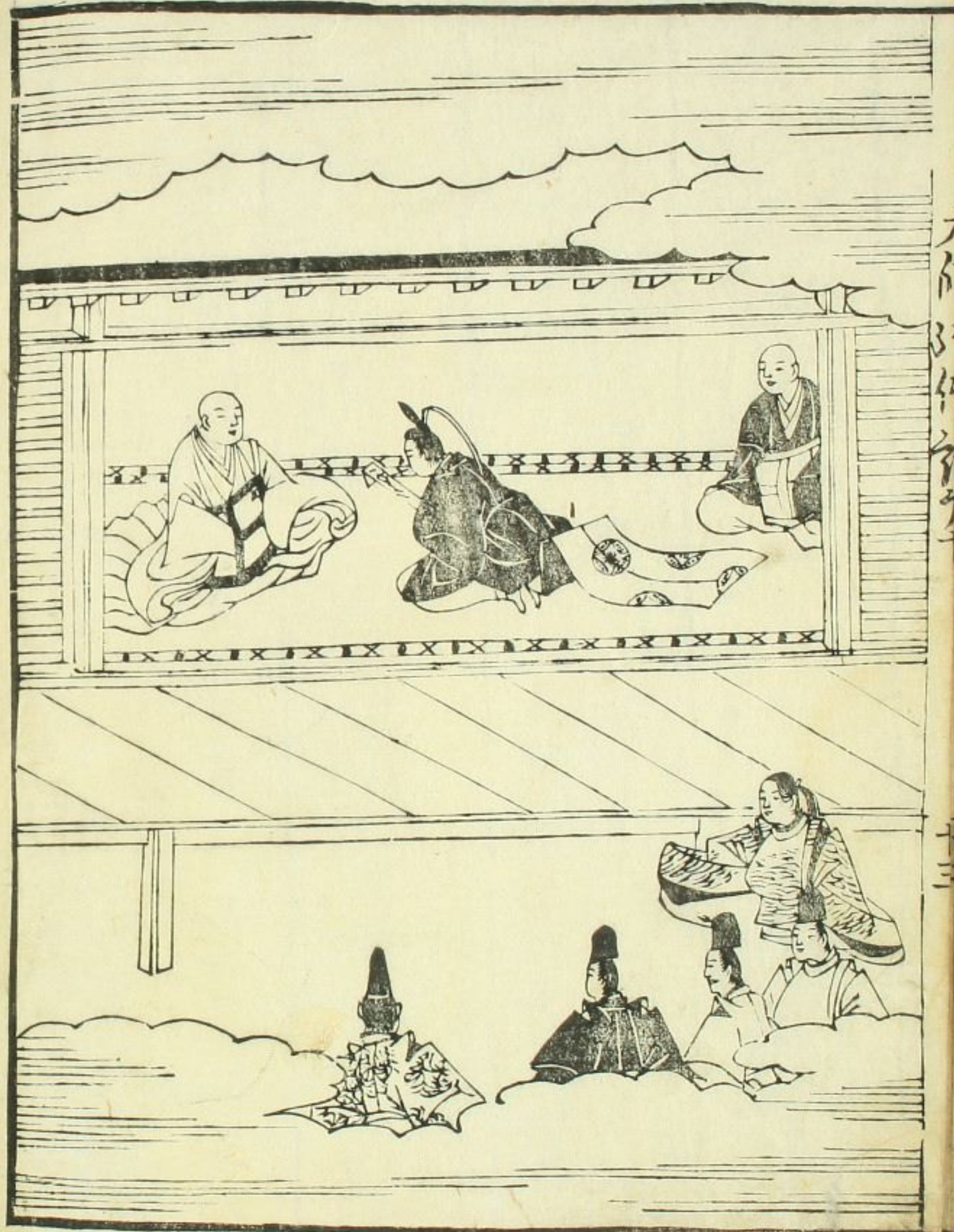
八月十九日

権中納言源

小野の傳はれ  
 小野の傳はれ  
 小野の傳はれ

大野の傳はれ





ありし時、卒大おん藤原の宰相をとりし、何事か  
 山乃大塔と彼をせられんがた、先よき事なれば  
 後し移し、ころよ、新橋とよし、日あり、ど、何事か  
 とげられ、まは、丹城、夏色よ、海、け、あ、わ  
 大脚あり、れ、お、せ、あ、ひ、て、一、切、の、常、羅、百、事、を、ま  
 海、の、ひ、と、い、は、ち、地、よ、げ、な、る、風、情、を、そ、と、め、り  
 若、き、勢、力、あ、ひ、い、く、ば、大、お、團、あ、り、の、さ、く、ま、ん、く  
 ことよめり、て、た、り、た、く、ま、り、れ、ん、と、あ、る、こ、も、な、ら  
 け、も、が、あ、る、こ、も、う、勢、力、あ、ひ、い、く、入、定、と、い、ふ、も、も  
 一、切、の、常、羅、百、事、を、ま、と、い、ふ、も、も、と、い、ふ、も、も、と、い、ふ、も、も  
 と、い、ふ、も、も、と、い、ふ、も、も、と、い、ふ、も、も、と、い、ふ、も、も

大正十一年

五



そとくしき。きつせし山金野岩寺の八葉よそじえんく。  
 華厳とん海よ親とんいあ部とくねとん華厳とん  
 とん石壁よりあつりわを海に法界乃又よんけ  
 伽藍東南西北維上下あつり一切の法は法  
 やがん思那とんおとらくの西神おんあを我  
 法界七里があふおんれ法はとましらん長神お  
 へんよあつりして伽藍よ信して一心に佛は法  
 恒持をばお承を割葉乃法門法帝その何也  
 おんおけあありつらつらゆへに法は安民乃を免る  
 法界よあひて除災福喜のなゆとん建をて院  
 郭十あ乃塔が郭乃十夫あつりもてあつり

大和の地

十五



大和の地

十五

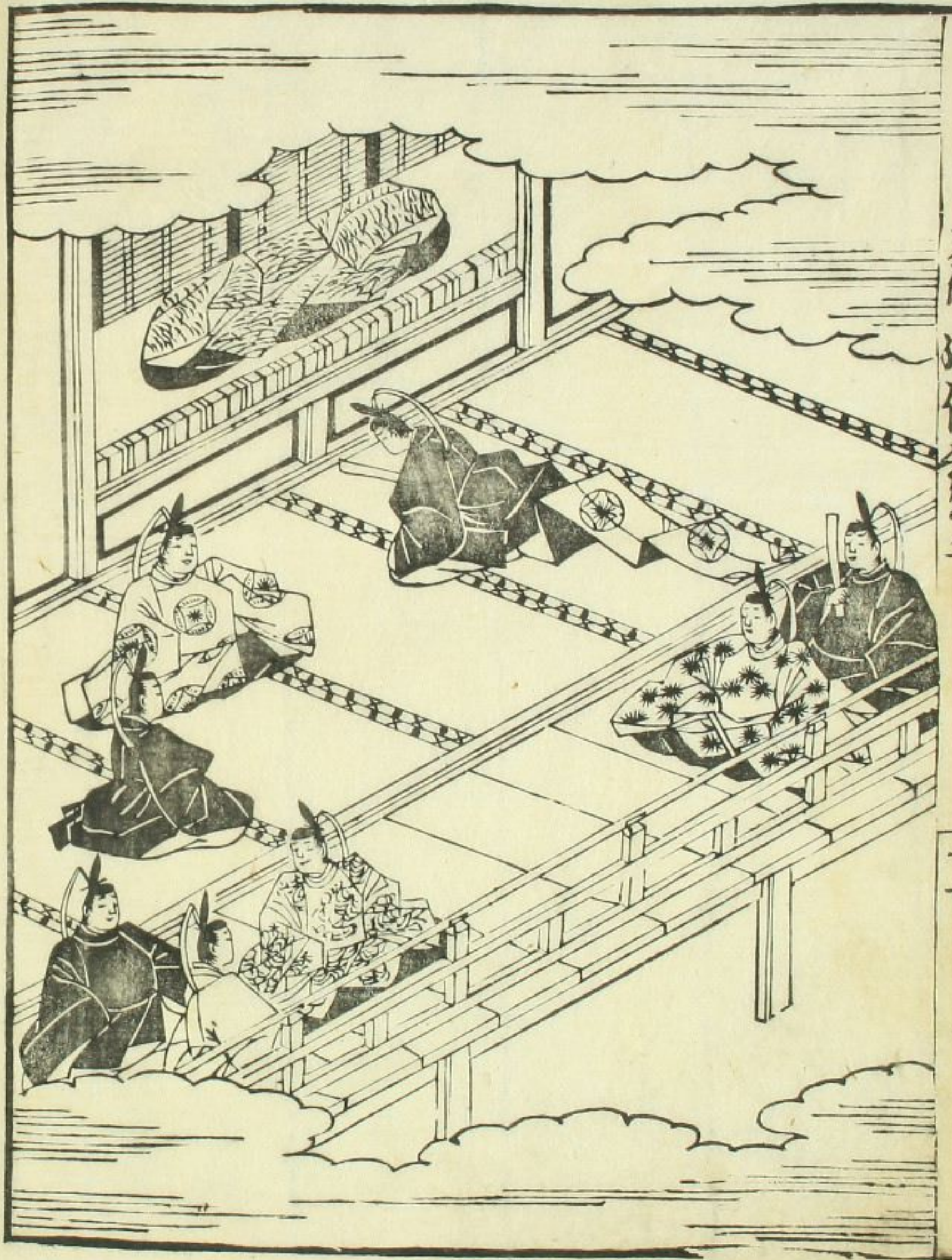












加賀の御祭

十一

ぬきまをせり。周王の教りく。歩み集むれん  
 どり松とうひつろふ。おろく。林かど行ま  
 くば。金玉とらり。むえ。うく。と。かざり。錦。編と  
 たら。く。夜。初と。その。へ。籠。旗。夫。り。む。う。ぐ。人。利  
 昼。珍。色。に。の。かり。後。遊。地。と。して。松。園。燈  
 て。大。園。乃。つ。ん。う。う。う。と。ど。ら。ら。ぬ。が。と。あり。し  
 とうや

加賀の御祭

十一





大正十一年  
三月  
十日





け山より。物油山唐屋ま見ゆり。小具悉あり。  
 摩尼乃三ぬよ。空海三つ。ゆき輪の徳と  
 しくつして安重一なり。物油山ま他言あり。  
 源山よ入人時して仙人と云るまありと云や。  
 け外山中に之持乃降去ありと云ゆり也。  
 吳吳弁瑞あけくかきふへうと云。たうそ二千六  
 乃三ぬ。四方よほくありと云。中三無始乃智と云  
 知り。二千六乃ある。けり。神して皆同。自性乃  
 如徳とわらうん。一度け三ぬとあり。ひものけな  
 ぐ。三ぬの苦滅と云え。一命し。その修とあり。不  
 と人けあきと云。世乃死海と云。川べと云也。

大洲伝記十

十九



寬文二年壬寅  
初春吉旦



大正...

...



